

V. その他

1. 「宮崎県自然豊かな水辺の工法研究会」を運営しました

この研究会は、宮崎県との協働事業として実施していて、本団体が事務局を務めました。河川等に関係する行政や企業の技術者が多自然川づくりを学ぶ水辺の工法研修会と、うるおいのある川づくりコンペ、身近な水辺のモニター報告会、河川担当の行政職員を対象とした研修会の開催を行っています。特に本年度は、河川基金から川づくり団体部門で助成を受けて、多自然川づくりの人材育成の一層の充実を図るために、これまでの河川改修事業の中から宮崎県河川課と模範事例を選定し、教材として印刷し、優良事例集の発行とホームページへの掲載を行って、その活用を図りました。

●水辺の工法研修会の開催

平成 29 年度第 1 回研修会

実施日 6月1日(木) 会場：日向市中央公民館

6月2日(金) 会場：JAアズムホール

講師1 ひむか河川研究所 黒木修身 氏

題名 建設技術者の実務におけるドローンの活用

講師2 山口県土木建築部河川課 吉村崇 氏

題名 「水辺の小わざ」による効率的な魚道改善の取組み

両会場の合計参加者数：行政 34 名、民間 572 名



平成 29 年度第 2 回研修会

実施日 8月9日(火) 会場：日向市中央公民館

8月10日(木) 会場：JAアズムホール

講師1 九州大学大学院環境社会部門 林 博徳 氏

題名 環境に配慮した川づくりのポイント

講師2 熊本大学大学院先端科学研究部 一柳 英隆 氏

題名 川の生き物の移動と生息地の連続性

両会場の合計参加者数：行政 39 名、民間 524 名



平成 29 年度第 3 回研修会

実施日 10月10日(火) 会場：日向市中央公民館

10月11日(水) 会場：JAアズムホール

講師 1-1 大分県佐伯土木事務所 築地 祐一郎 氏

題名 効率的な維持管理を目指した中小河川の掘削断面について

講師 1-2 大分県国東土木事務所 小石 麻祐子 氏

題名 武蔵川における重要生物の保全～水辺環境の復元を目指して～

講師 2 九州河川研究所 杉尾 哲 氏

題名 宮崎県内の優れた川づくりの事例紹介

両会場の合計参加者数：行政 45 名、民間 459 名



●身近な水辺のモニター担当者研修会の開催

各土木事務所で河川モニターと実施する五感による水辺調査とHEI チェックシートによる河川環境調査について、実施方法を解説して現地実習を行いました。

実施日 平成 29 年 5 月 22 日(月)

会場：宮崎市・本庄川、 参加者数 11 名



●第 11 回うるおいのある川づくりコンペの開催

「私たちがめざすうるおいのある川や水辺はどんな姿なのか」について、河川で活動する企業・行政に呼びかけて開催しました。今年は、審査の結果、延岡河川国道事務所の「延岡水郷鮎やなど都市・地域再生等利用区域の指定について」が金賞、西臼杵支庁の「神代川かわまちづくりについて」と高岡土木事務所の「浦之名川でのセットバック方式による魚道整備計画について」が銀賞を受賞して、銀賞 2 件が宮崎県の代表として 10 月に大分市で開催された九州大会の発表課題に選出されました。

実施日 平成 29 年 8 月 29 日 (月)

会場：宮崎県企業局県電ホール 発表団体数 9 団体、参加者数 53 名



●宮崎県河川担当職員を対象とした研修会の開催

宮崎県と国交省の河川担当職員を対象として、浦之名川を対象とした多自然川づくりの理解と現地での技術の習得を目的として現地調査と設計演習、演習結果の発表を行いました。

実施日 平成 29 年 11 月 8 日(水)

場所：高岡土木事務所、 参加者数 12 名



●第 9 回身近な水辺のモニター報告会を開催

県内各地の土木事務所で地域住民の方々をお願いしている水辺のモニターの意見を今後の川づくりに反映させるために、調査の成果を報告し、いろいろな情報交換を行いました。

実施日 平成 30 年 2 月 20 日(火)

会場：企業局県電ホール

発表団体数 12 団体、 参加者数 56 名



以上の「宮崎県自然豊かな水辺の工法研究会」の宮崎県との協働事業は、多自然川づくりが県内各地で推進されているとともに、宮崎での住民・行政・民間業者・NPO が一体となった川づくりの取り組みが全国的に高く評価されていることから、次世代にうるおいのある川を受け渡すために、今後さらに充実させて実施すべきであると評価します。

2. 河川協力団体として活動しました

本団体は、みやざき川づくり交流会の運営補佐や、河川利活用の事例収集、水生生物調査の安全管理、水辺の安全講習会の開催などの様々な活動を宮崎河川国道事務所から受託して実施しています。

●みやざき川づくり交流会の運営補佐

第1回みやざき川づくり交流会

国富町内を流れる本庄川を見学し、国富町役場で各団体の活動紹介、各助成金制度の紹介などについて協議しました。

開催日 平成29年9月27日(水)

場所 国富町役場

出席団体数 14団体、参加者数：行政32名、団体22名



第2回みやざき川づくり交流会

各団体の活動紹介、来年度の九州川のワークショップの参加や次回開催地などについて協議しました。

開催日 平成30年2月28日(水)

場所 宮崎河川国道事務所

出席団体数 12団体、参加者数：行政29名、団体21名



●河川利活用事例収集、簡易水質調査実施補助

みやざき川づくり交流会に参加している各団体の活動状況の取材と宮崎河川国道事務所が実施する小学校を対象とした水生生物調査の安全管理補助を行いました。

実施日 平成29年9月～平成30年3月

取材団体数 17団体



●水辺の安全講習会の開催

水辺で安全に活動するために、河川内の危険箇所、水中活動時の装備等についての講義と流水中での実習を行いました。

開催日 平成29年7月19日(水)

場所 国富町農村環境改善センター、本庄川

参加者数 11名



●ミズベリング宮崎の実施

大淀川の景観・歴史・文化等の魅力などを活かして水辺空間を賑やかにする企画会議を開催し、夜桜会、水辺で乾杯、水辺のパラソル、水辺でお接待などを行いました。

実施日 平成29年4月～平成30年3月

以上の河川協力団体としての諸活動は、宮崎県南部で活動する河川環境保全団体との連携を深めるために極めて重要であるとともに、川で安全に楽しく利活用するために必要であることから、今後とも積極的に継続すべき取り組みであると評価します。

3. タコノアシの保全活動

● 高松橋下流砂州

高松橋下流の砂州には、宮崎県絶滅危惧植物のタコノアシが生育しています。富士フィルム・グリーンファンドの助成を受けて、生育地の日当たりを改善するとともに生育範囲を拡大するために、周辺のヨシを刈取り、表土を掘起して、埋土種子の発芽を誘導しました。

実施日 平成 29 年 4 月 15 日(日)と 7 月 9 日(日)

実施場所 高松橋下流の河川敷、 参加者数 14 名



● 天満橋下砂州

大淀川河川敷広場のせせらぎ水路とワンドを繋ぐ小川の天満橋上流側には、宮崎県絶滅危惧植物のタコノアシが群落を形成して生育しています。セブン-イレブン記念財団の助成を受けて、生育地の日当たりを改善するとともに生育範囲を天満橋下流側に拡大するために、周辺のヨシやオギ、ヤナギなどを刈取り、水辺を緩傾斜にして、茎を移植しました。

実施日 平成 29 年 5 月 28 日(日)、7 月 23 日(日)、

11 月 23 日、30 年 3 月 25 日(日)

実施場所 天満橋下砂州、 参加者数 89 名



大淀川下流の河川敷は、当団体の貴重な活動フィールドになっています。企業や学校、親子などの多くの住民が参加するクリーンアップやタコノアシの保全活動を行うことによって、天満橋周辺の左岸河川敷が身近な自然体験の場所として活用できるようになっています。これらの環境保全活動は、川の素晴らしさ・大切さ・楽しさを参加者に気付かせて川への関心を高めるために重要であることから、今後とも積極的に継続すべき取り組みであると評価します。

4. 九州「川」のワークショップ in 大野川に参加しました

河川流域で活動している九州の団体・学校・行政・企業などが活動発表・意見交換や情報共有を行ってより良い水環境を育むとともに、流域連携を目的として毎年九州各地で開催されています。今年の第 17 回は隣県の大分県で開催されたことから、みやざき川づくり交流会の方々と一緒に参加しました。また、二日目の見学会では大分川水系七瀬川の上流に建設中のロックフィルダム形式の大分川ダムを見学しました。本体工事は既に完成していて、平成 30 年 2 月から水を貯め始めるので、貯水する前しか見ることができないダムの姿でした。

開催日 平成 29 年 11 月 11 日(土)～12 日(日)

開催場所 ホルトホール大分



5. MRT 環境賞大賞を受賞しました

宮崎放送の「キープみやざきビューティフル」キャンペーンにおいて、当団体の活動がふるさと宮崎の環境保全の推進に特に顕著であるとして、2017年度 MRT 環境賞大賞を受賞しました。皆様のご協力の賜物であると感謝します。

表彰式 平成 30 年 3 月 21 日（水・祝日）

開催場所 MRT Micc エメラルドホール



九州「川」のワークショップは、九州の河川をフィールドとする活動発表や意見交換、情報共有を行う全国的にも貴重な機会であり、他の団体の活動手法を学び・理解し、今後の活動の糧となることができることから、今後とも積極的に継続すべき取り組みであると評価します。MRT 環境賞の受賞は平成 27 年度国土交通大臣賞に続く光栄な表彰で、この榮譽に応えるように、今後とも益々連携の輪を広めて、自然豊かで清らかな大淀川を次世代に引き継いでもらえるように活動を継続すべきであると評価します。